デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2026年（令和8年）11月5日（木曜日）（18）

15日から「はちのへシネマウィーク」

全30作ポスターお目見え

八戸市中心街で15～22日に開かれる映画祭「はちのへシネマウィーク―街に灯（あかり）を―」の開幕が近づき、準備作業が本格化している。中心街にはラインアップされた全30作のポスターがお目見え。前売り券の販売数も徐々に伸びており、市民の関心も高まりつつある。（佐藤周平）



八戸クリニック街かどミュージアムに上映作品のポスターを掲示する「白マドの灯」のメンバーら＝3日、八戸市

八工大生デザイン、開幕準備本格化

全30作のポスターをデザインしたのは、八戸工業大感性デザイン学部4年の谷川舞衣さん(21)。映画の魅力を伝える画像と、上映者や運営スタッフのお薦めコメントを添えた。3日から八戸クリニック街かどミュージアムで掲示が始まった。

谷川さんは「30作品のポスターがずらりと並んだので興味を引くと思う。多くの人に来場してほしい」と呼びかける。

映画祭では公募した20団体・個人が中心街の8会場で作品を上映する。

一部会場ではユニークな趣向が見られる。八戸酒類の酒蔵では、インド映画を「マサラ上映」と呼ばれる観客参加型のにぎやかな鑑賞スタイルで公開。市美術館ではジャイアントルームの壁面を大きなスクリーンに見立てて上映する。「はっち」では1927年公開のサイレント映画の名作「第七天国」を、活動弁士とピアノ伴奏付きで披露する。

地元関連では、八戸出身の脚本家・小國英雄の没後30年を記念し「赤穂浪士（1961年）」など2作品を上映。同市で昨年3月に閉店したカフェのドキュメンタリー「Patrie（パトリ）　最後の1年」や、南郷を舞台にした「あなたとわたし、ワルツ」など2作品もスクリーンに登場する。八戸の芸能事務所トゥインクル所属のタレントが出演した「風に消えた手紙」も公開される。

主催団体「白マドの灯（あかり）」は、六日町の旧いわとくパルコにも今週中にポスターを張り出す。映画祭期間中はマチニワにも掲示する。

映画祭はデーリー東北新聞社が創刊80周年を記念し特別協賛する。前売り券は映画祭の公式サイトと、街かどミュージアムで販売中。問い合わせは、白マドの灯＝電話0178（32）7737＝へ。

前売り券購入はこちらから

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。